

2025年10月期 決算説明会

2025/12/25

本日のアジェンダ

I. 事業環境 4
II. 2025年10月期実績 8
III. 2026年10月期業績予想 18
IV. アクシーブ概況 24
V. 中期経営計画の進捗状況 31
VI. 質疑応答	

本日のアジェンダ

I. 事業環境 4
II. 2025年10月期実績 8
III. 2026年10月期業績予想 18
IV. アクシープ概況 24
V. 中期経営計画の進捗状況 31
VI. 質疑応答	

米国関税政策の影響

- 米国関税政策が当社製品に与える直接的影響は、現時点においても軽微であるとの認識は変わらず。

原油・ナフサ価格

- 原油価格、国産ナフサ価格ともに下落基調が継続

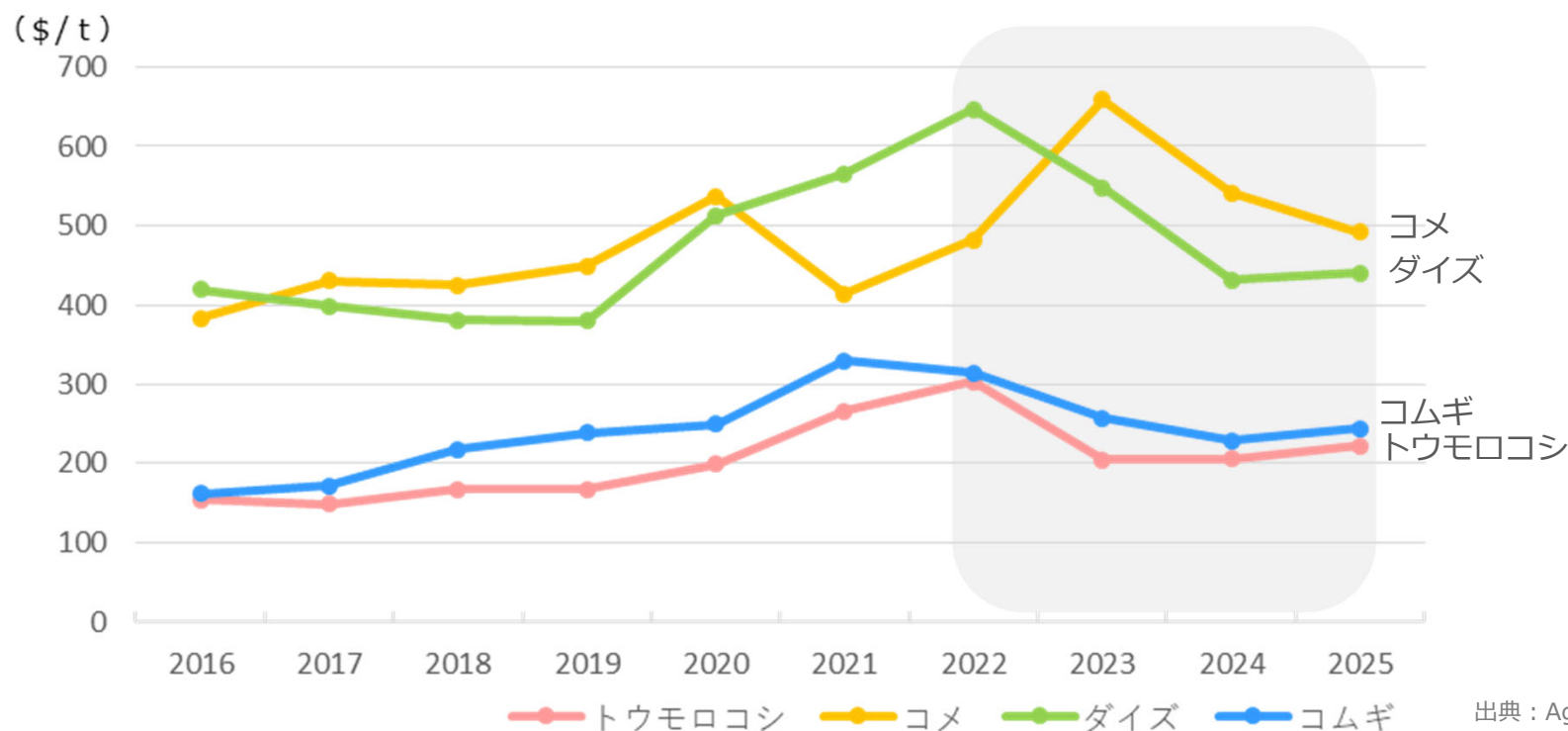
対ドル為替動向

- | | |
|-----------|---------------------|
| ■ 期中平均レート | 149円（前年同期151円、当社算出） |
| 期末日レート | 154円（前年同期154円、当社算出） |

事業環境

穀物市況

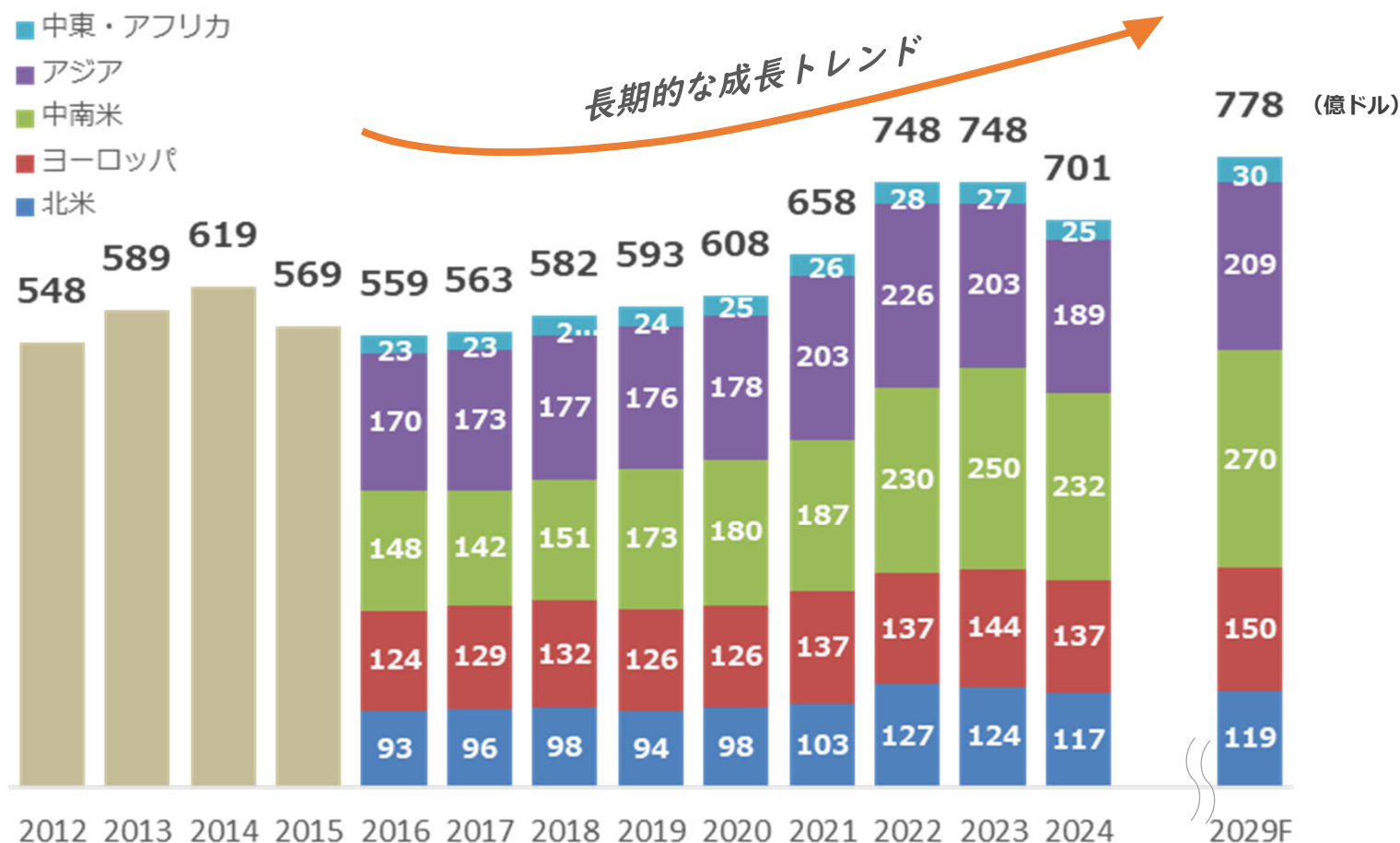
- 主要穀物（コメ、ダイズ、コムギ、トウモロコシ）は低い水準で推移
 - ー 2020年後半から中国の輸入需要の増加や異常気象により上昇
 - ー 2022年ロシアのウクライナ侵攻により、穀物価格が高騰
 - ー 高騰した穀物価格はブラジル等の豊作から侵攻前の水準まで低下
 - ー コメ価格も国内での高騰に反し、世界的には下落基調が継続



事業環境

農薬市場の動向

- 流通在庫水準が適正化することで 再び成長基調に転じると予想
- 国内は3,800億円程度へ緩やかに拡大



本日のアジェンダ

I. 事業環境 4
II. 2025年10月期実績 8
III. 2026年10月期業績予想 18
IV. アクシープ概況 24
V. 中期経営計画の進捗状況 31
VI. 質疑応答	

2025年10月期 実績

(単位：億円)

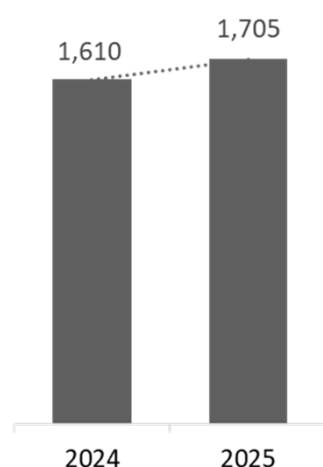
	2024 実績	2025 実績	増減	増減率
売上高	1,610	1,705	+ 94	+ 6%
売上総利益	354	344	▲10	▲3%
営業利益	114	106	▲8	▲7%
経常利益	183	134	▲49	▲27%
親会社株主に帰属する当期純利益	136	44	▲92	▲68%

参考：平均レート

¥/ドル=151

¥/ドル=149

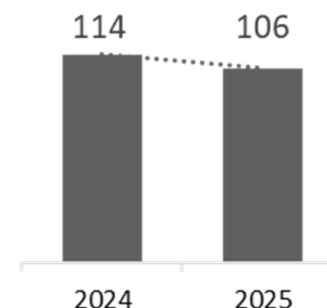
売上高



前年比 **+94 億円**

- (+) いずれの事業セグメントも前年を上回り増収
- (+) アクシーブ：+44億円

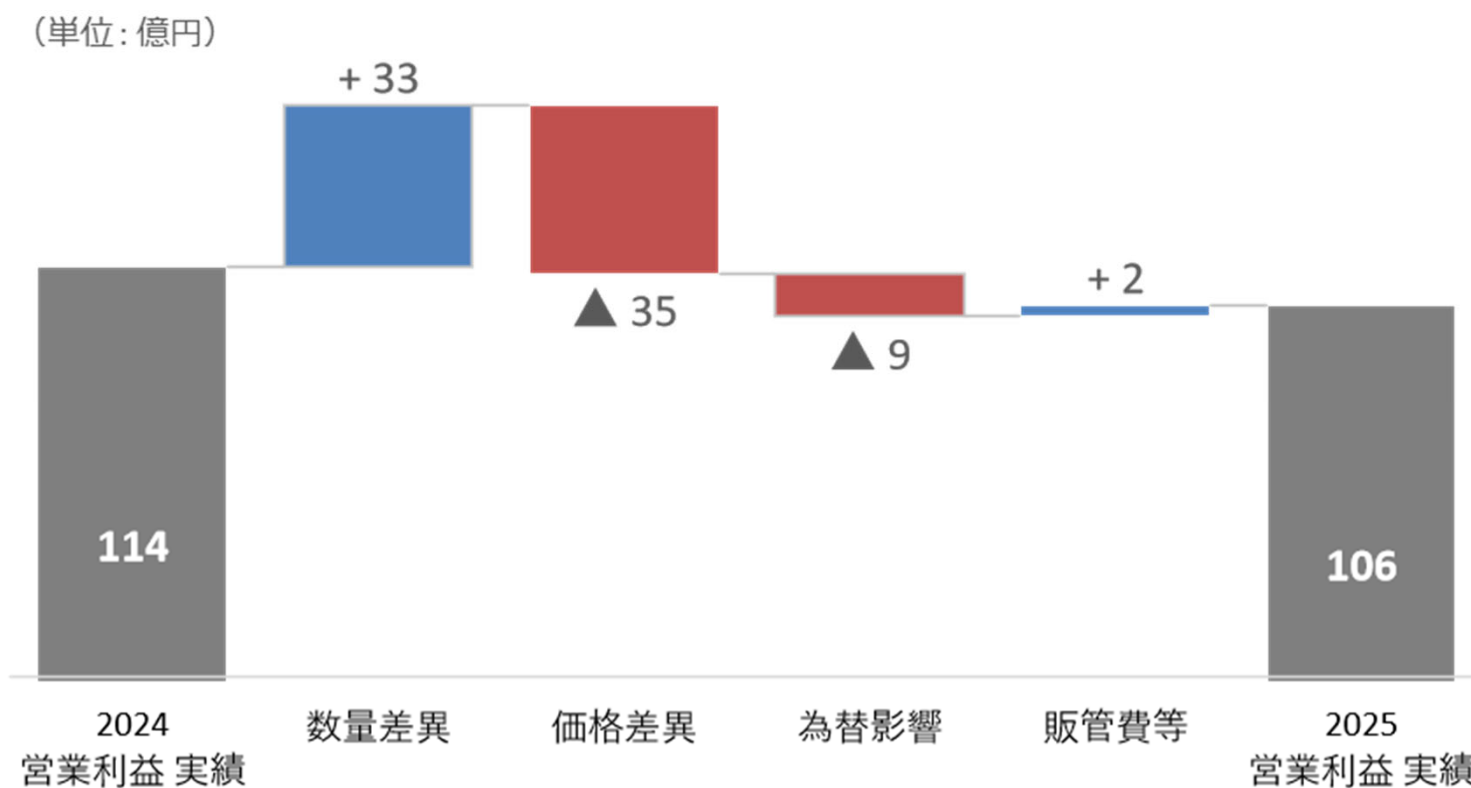
営業利益



前年比 **▲8 億円**

- (-) 農薬事業の減益
- (+) 化成品事業の増益

営業減益の要因

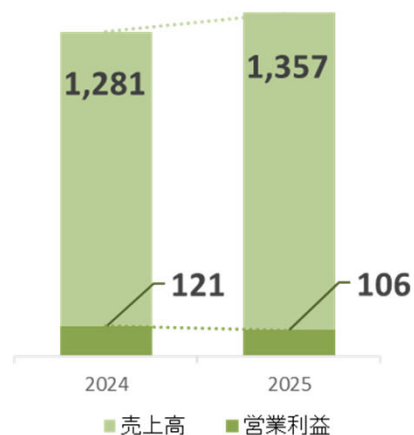


2025年10月期実績 -セグメント別

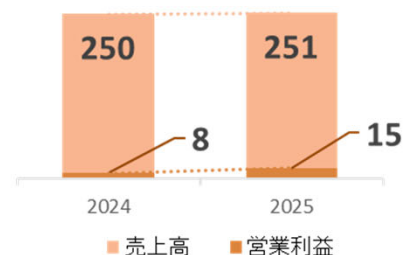
(単位：億円)

	2024 実績	2025 実績	増減	増減率
売上高	1,610	1,705	+94	+6%
農薬及び農業関連	1,281	1,357	+76	+6%
化成品	250	251	+1	+1%
その他	79	97	+17	+22%
営業利益	114	106	▲8	▲7%
農薬及び農業関連	121	106	▲16	▲13%
化成品	8	15	+8	+98%
その他	8	9	+0	+2%
(調整額)	▲ 24	▲ 24	+0	-

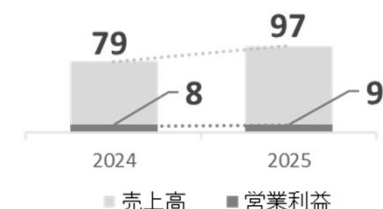
農薬及び農業関連



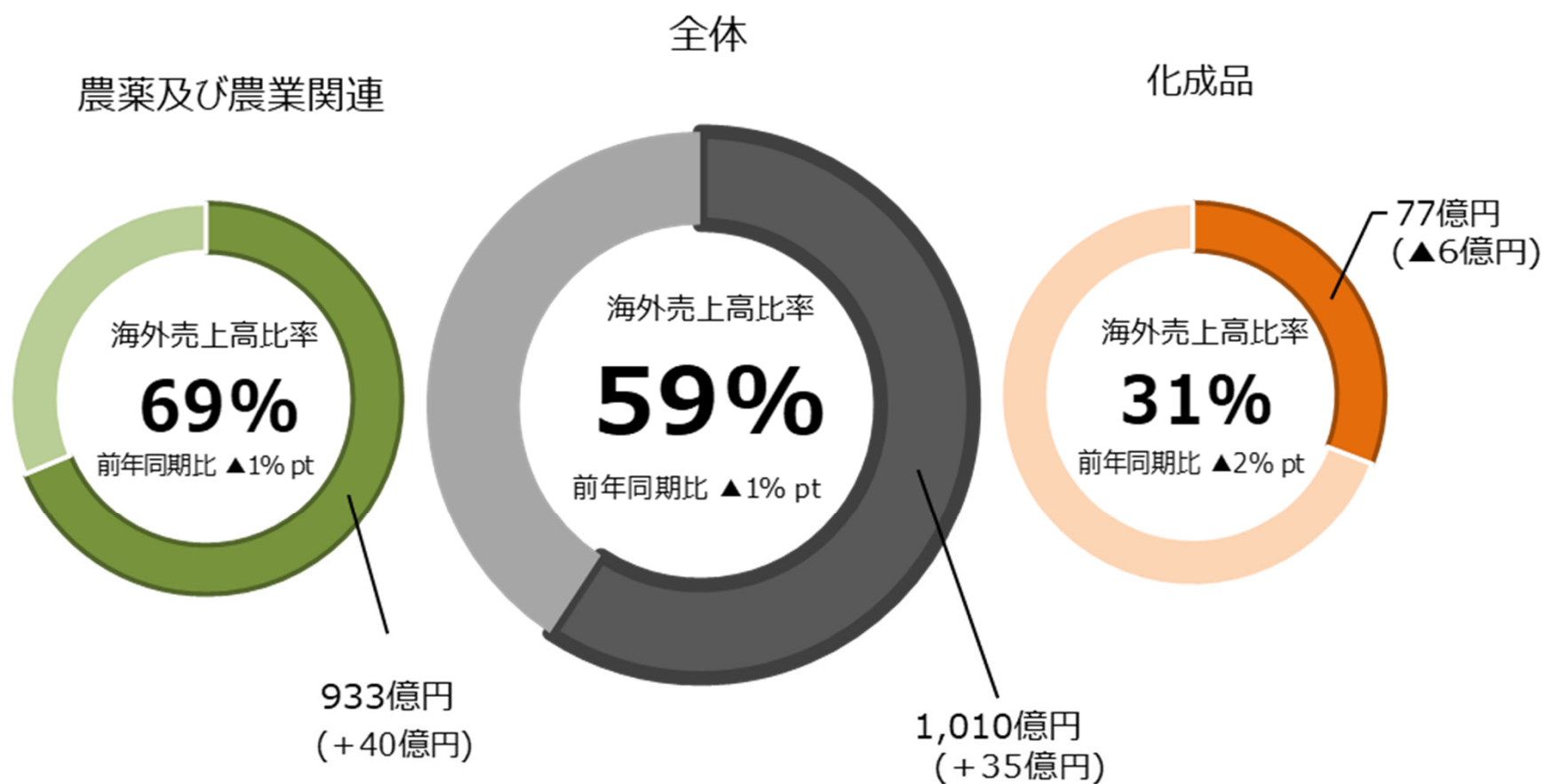
化成品



その他



2025年10月期実績 - 海外売上高比率



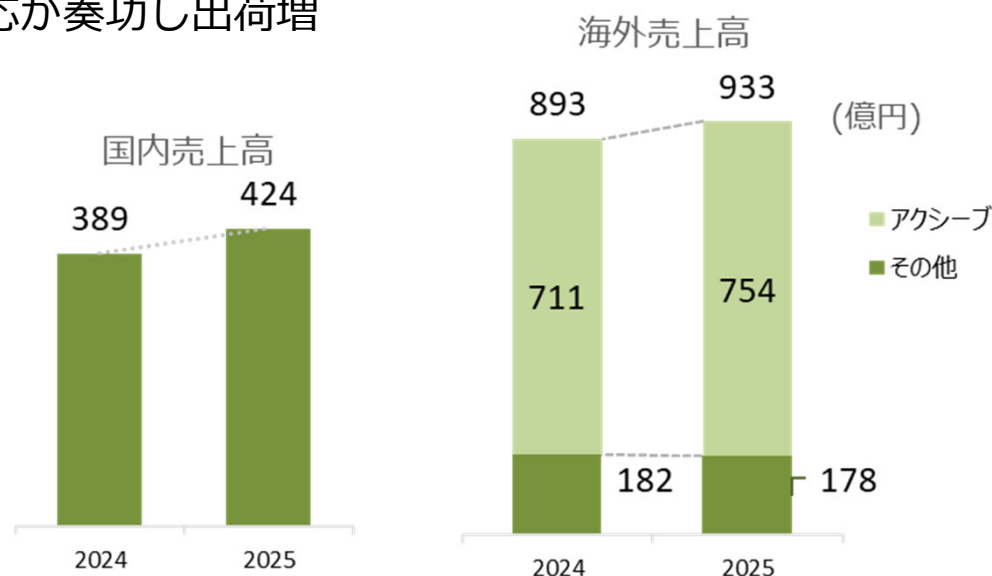
2025年10月期実績 - 農薬及び農業関連事業

国内

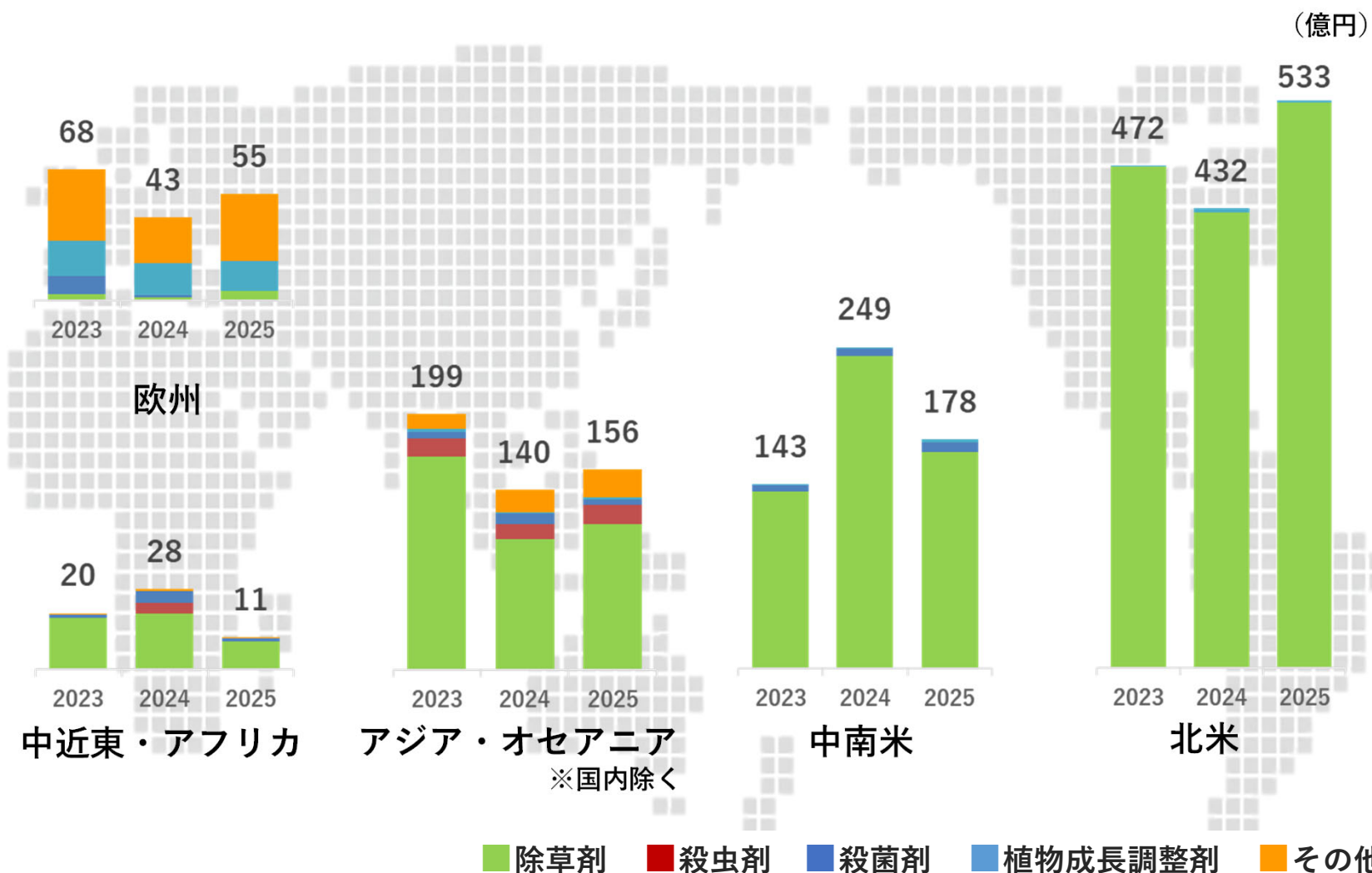
- 除草剤「エフィード」を含む、水稻用除草剤が順調（水稻一発処理除草剤シェア5年連続No.1）
- 殺菌剤「ディザルタ」を含む、水稻用箱処理剤も順調
- カメムシ類の発生拡大による殺虫剤の需要増

海外

- 除草剤「アクシーブ」について、アルゼンチンでジェネリックの影響を受けるも、米国の流通在庫の消化や、販促支援強化により出荷増。オーストラリア向けは特許侵害品に対する法対応が奏功し出荷増



2025年10月期実績 -農薬及び農業関連事業 -地域別・用途別 売上高



2025年10月期実績 -化成品事業

塩素化

- 事業環境悪化に伴う、クロロキシレン系製品の出荷減

精密化学品

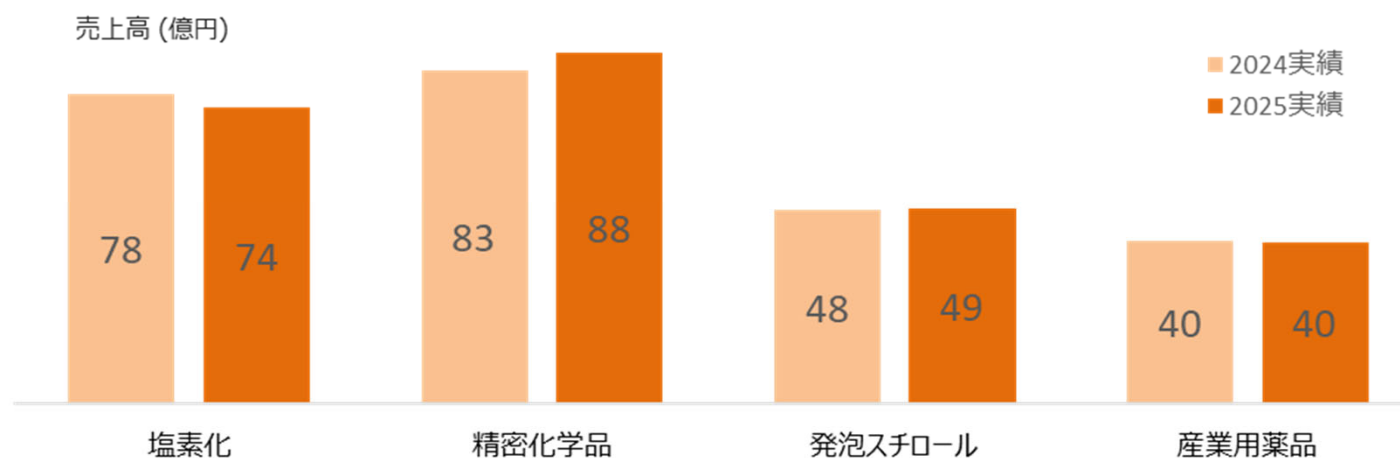
- 生成AIサーバー向け電子材料分野の需要好調によるビスマレイミド類の出荷増
- アミン類の出荷も堅調に推移

発泡スチロール

- 前年並みで推移

産業用薬品

- 前年並みで推移



2025年10月期実績 -化成品事業 減損損失

会社概要

- ・会社名 : Iharanikkei Chemical (Thailand) Co., Ltd.
- ・所在地 : タイ、ラヨーン県
- ・事業内容 : クロロキシレン系化学品
(主に**アラミド繊維原料**)の製造販売

設立の目的

アラミド繊維原料のタイ現地製造による**コスト競争力**の確保と**生産能力の拡大**

中国・インドなどの化学メーカーの市場参入による**競争の激化**

設立当時の事業計画との大きな乖離が生じたため
37億円の固定資産の減損損失を計上

2025年10月期実績 -総括

事業全体

当期純利益※：親会社株主に帰属する当期純利益

売上高	1,705 億円	(前年比 +94億円)
営業利益	106 億円	(前年比 ▲8億円)
経常利益	134 億円	(前年比 ▲49億円)
当期純利益※	44 億円	(前年比 ▲92億円)

- ・いずれのセグメントも前年を上回り、94億円の増収も、農薬及び農業関連事業の大幅減益により8億円の営業減益
- ・経常利益は、持分法による投資利益の減少に加え、為替差損の計上により49億円の減益
- ・当期純利益は、タイ現地法人（化成品事業）における固定資産の減損損失等の計上により92億円の減益

農薬及び農業関連事業

売上高	1,357 億円	(前年比 +76億円)
営業利益	106 億円	(前年比 ▲16億円)

- ・除草剤「アクシーブ」のアルゼンチン向け出荷が減少した一方、米国向けは流通在庫の消化が進んだことに加え、販促支援の強化により出荷増、オーストラリア向けは特許侵害品に対する法対応が奏功し出荷増を要因に増収。営業利益はジェネリック品参入等への対策として価格対応を実施したため減益

化成品事業

売上高	251 億円	(前年比 +1億円)
営業利益	15 億円	(前年比 +8億円)

- ・殺菌剤「ディザルタ」、除草剤「エフィード」の国内販売は好調推移
- ・生成AIサーバー向け電子材料分野の需要が好調に推移し、ビスマレイミド類の出荷増
- ・アミン類の出荷も堅調に推移

その他事業

売上高	97 億円	(前年比 +17億円)
営業利益	9 億円	(前年比 +0億円)

- ・建設業における新規工事受注等の増加により増収も、資材価格の高騰等により微増益

本日のアジェンダ

I. 事業環境 4
II. 2025年10月期実績 8
III. 2026年10月期業績予想 18
IV. アクシーブ概況 24
V. 中期経営計画の進捗状況 31
VI. 質疑応答	

2026年10月期業績予想

(単位：億円)

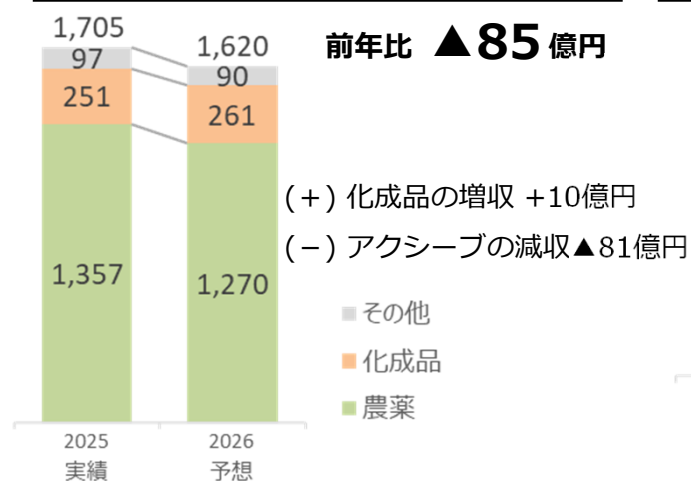
	2025 実績	2026 予想	増減	増減率
売上高	1,705	1,620	▲85	▲5%
農薬及び農業関連	1,357	1,270	▲87	▲6%
化成品	251	261	+10	+4%
その他	97	90	▲7	▲7%
営業利益	106	72	▲34	▲32%
経常利益	134	109	▲25	▲18%
親会社株主に帰属する当期純利益	44	64	+20	+46%

参考：平均レート

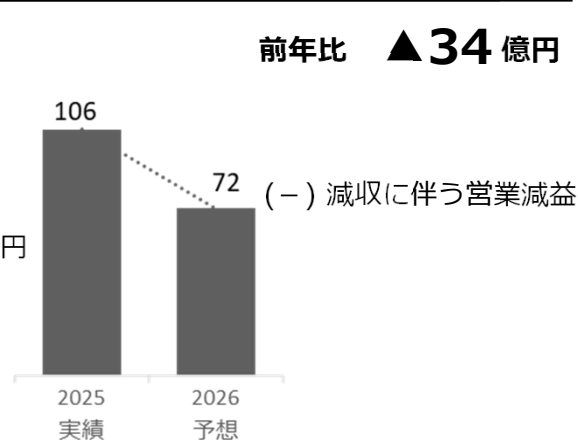
¥/ドル=149

¥/ドル=150

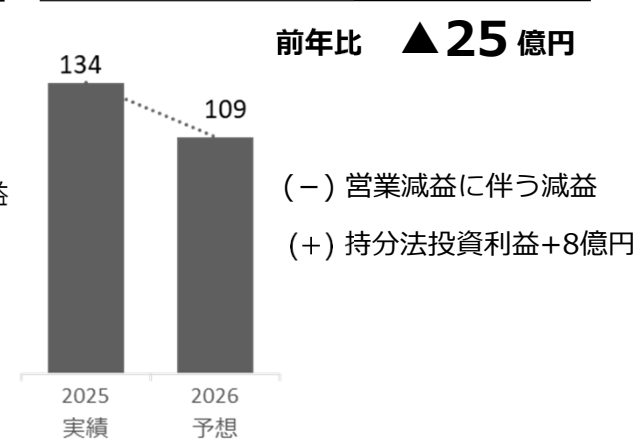
売上高



営業利益



経常利益

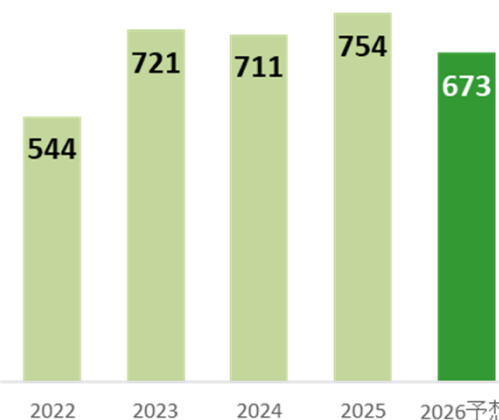


2026年10月期業績予想 - 農薬及び農業関連

アクシーブ（除草剤） 2026年度業績予想 売上高673億円

- ジェネリック参入地域では競合が激化する見通し
- ブラジルでは競合剤の低価格化に伴い、引き続き市場環境は厳しいと想定
- 適切な戦略の策定・実施によりシェア維持を図る

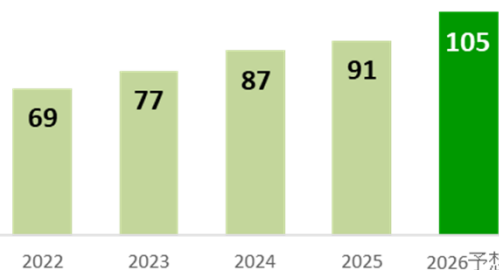
アクシーブ売上推移



エフィーダ（除草剤） 2026年度業績予想 売上高105億円

- 国内の農薬需要増加を背景に販売は好調に推移
- 昨年度に引き続き、国内で新規混合剤1剤を販売開始
- 既に販売を開始している韓国に加え、米国にてValent社と水稻用除草剤の開発を開始

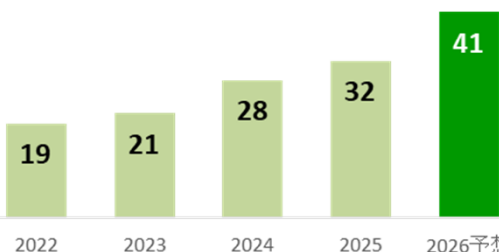
エフィーダ売上推移



ディザルタ（殺菌剤） 2026年度業績予想 売上高41億円

- 国内の農薬需要増加を背景に販売は堅調に推移
- 昨年度に引き続き、国内で新製品3剤を販売開始

ディザルタ売上推移



2026年10月期業績予想 -化成品事業

塩素化

- 前期並みを見込むも、引き続き厳しい事業環境が見込まれる

精密化学品

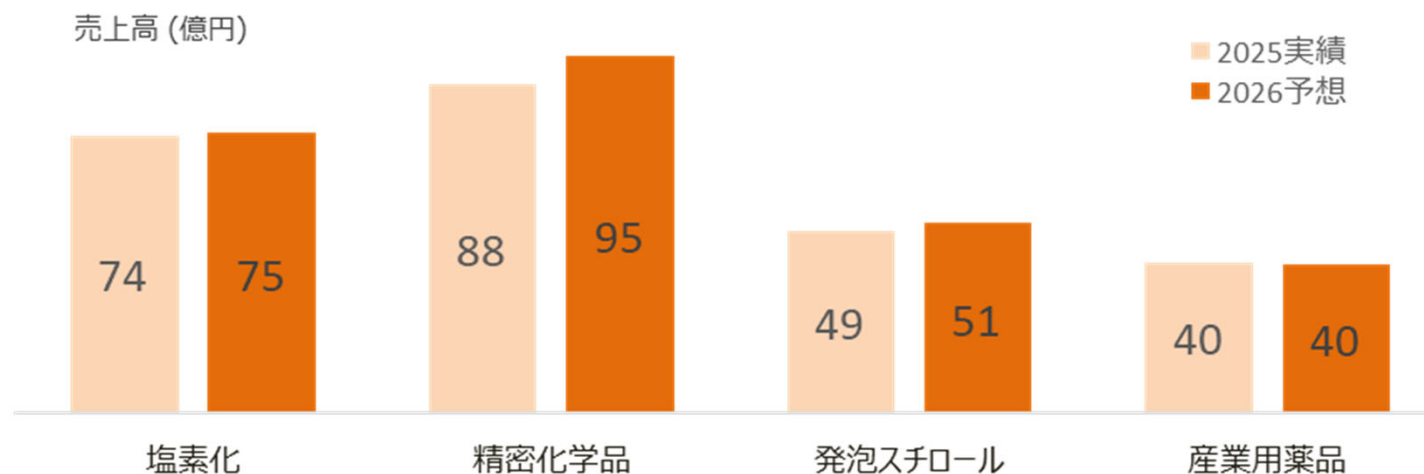
- 半導体需要増に伴うビスマレイミド類の出荷増を見込むも、新プラント稼働初年度による減価償却費負担の増加が見込まれる

発泡スチロール

- 微増収を見込む

産業用薬品

- 前期並みを見込む



研究開発費・設備投資・減価償却費

研究開発費

2025年度実績	71 億円	2026年度計画	79 億円
----------	--------------	----------	--------------

(主な内容) 海外開発への取り組み強化、最先端技術の活用による研究推進

設備投資

2025年度実績	70 億円	2026年度計画	59 億円
----------	--------------	----------	--------------

(主な内容) 生産・研究設備の更新

減価償却費

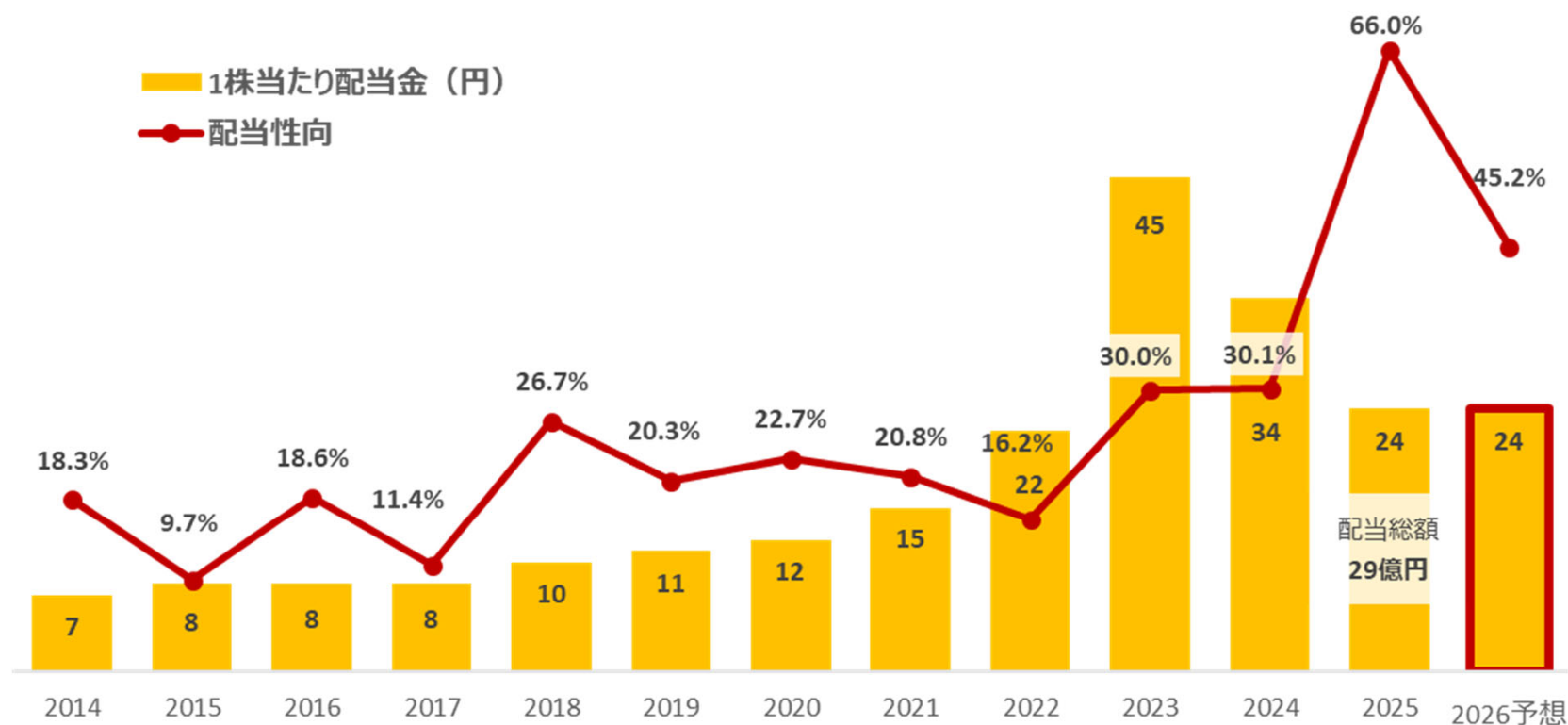
2025年度実績	57 億円	2026年度計画	59 億円
----------	--------------	----------	--------------

株主還元施策

配当性向30%以上を目標

2026年度 配当予想

中間配当10円+期末配当14円=年間配当24円（配当性向 45.2%）

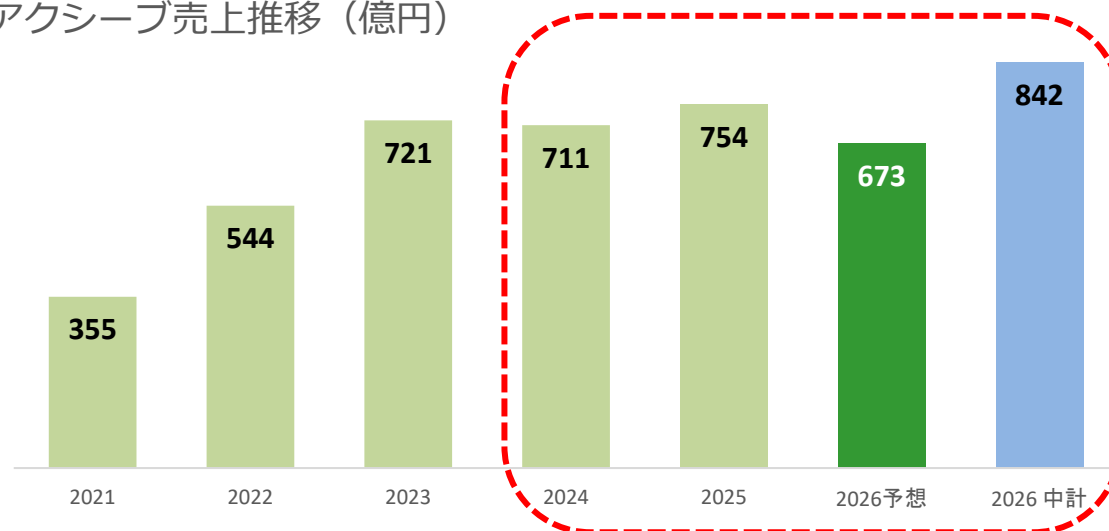


本日のアジェンダ

I. 事業環境 4
II. 2025年10月期実績 8
III. 2026年10月期業績予想 18
IV. アクシーブ概況 24
V. 中期経営計画の進捗状況 31
VI. 質疑応答	

アクシーブ概況 -中期経営計画との乖離

アクシーブ売上推移（億円）



中計策定時の想定を上回るアクシーブ事業をとりまく環境の変化

- ① コロナ禍に起因する世界的な農薬の在庫調整の長期化
- ② 供給過多による農薬価格の低下
- ③ ジェネリック参入による値下げ圧力の増大

目標達成に向かい風

アクシーブ概況 -ジェネリック品参入地域

アクシーブの物質特許は満了したが、当社は中間体や製造法などの有効な特許を保有。

当社の知財権を侵害している製品「特許侵害品」については法的な対応を実施。

一方、当社の知財権を侵害していない製品「ジェネリック品」に対しては、価格対応、販促支援、有効な混合剤特許による差別化でシェアの維持、拡大を図っている。

オーストラリア・アルゼンチン



2025年度売上高 :オーストラリア **56億円**
:アルゼンチン **69億円**

- ジェネリック品の販売が拡大
- 2025年は特許侵害品への法対応が奏功し出荷が促進されるも、2026年はジェネリック品との競合が更に激しくなると想定
- 特許侵害品に対する法対応を継続して実施
- シェアの維持、拡大に向けて価格対応、販促支援、混合剤による差別化を実施

アクシーブ概況 -ジェネリック品未参入地域

アメリカ



2025年度 :売上高 **522**億円

- 2025年度は流通在庫の消化、販促支援により出荷拡大
- 2026年度からジェネリック品参入が見込まれる
- 価格低下を見越した値下げ圧力が強まる見込み

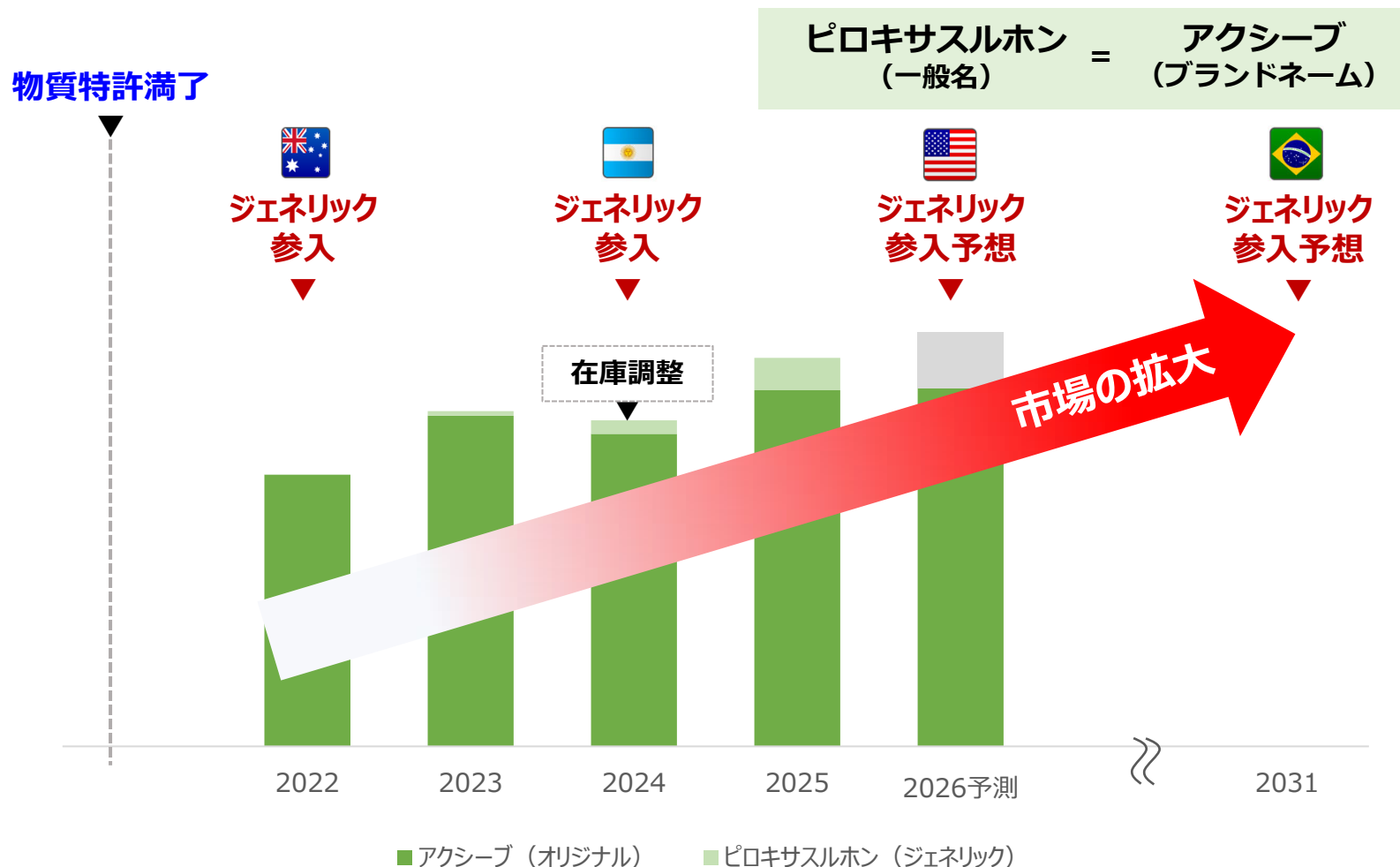
ブラジル



2025年度 :売上高 **84**億円

- 供給過剰による競合剤の低価格化、金利高によるクレジットリスクを背景に市場全体が低迷
- ジェネリック品参入は2030年以降だが、2026年度の市場環境は引き続き厳しくなると想定

アクシーブ概況 -ピロキサスルホン想定流通量 (輸入統計より)



- ピロキサスルホンの市場は今後も拡大していくと想定
- アクシーブのシェアを維持・拡大し、販売量を拡大させることが重要

アクシーブ概況 -ジェネリック品対策

販売量拡大

(生産)

生産数量増と原体製造法のさらなる効率化
によるコスト低減
世界で最も安価な生産

(販売)

競争可能な価格戦略の策定と実践
販路の拡大

(開発)

新規混合剤開発による製品ポートフォリオの充実と
高付加価値化の推進

収益性の改善

アクション概況 -特許侵害品対策

■ 13件（製造国：中国8件 / 販売国：オーストラリア5件）の 提訴案件に対し4件について和解

- 製造国と販売国の双方で法対応を並行して実施し、当社サイトでリリース
- 特に製造国である中国と、販売国である豪州からのリリース情報のダウンロード件数が多い
- 一連の対応は、特許侵害品の市場参入に対するけん制に有効に機能



知財：特許対応、法対応

開発：混合剤開発

調達：調達コスト低減、安定調達

生産：品質維持、製剤安定供給、ESG

営業：価格調整、販路拡大

本日のアジェンダ

I. 事業環境 4
II. 2025年10月期実績 8
III. 2026年10月期業績予想 18
IV. アクシープ概況 24
V. 中期経営計画の進捗状況 31
VI. 質疑応答	

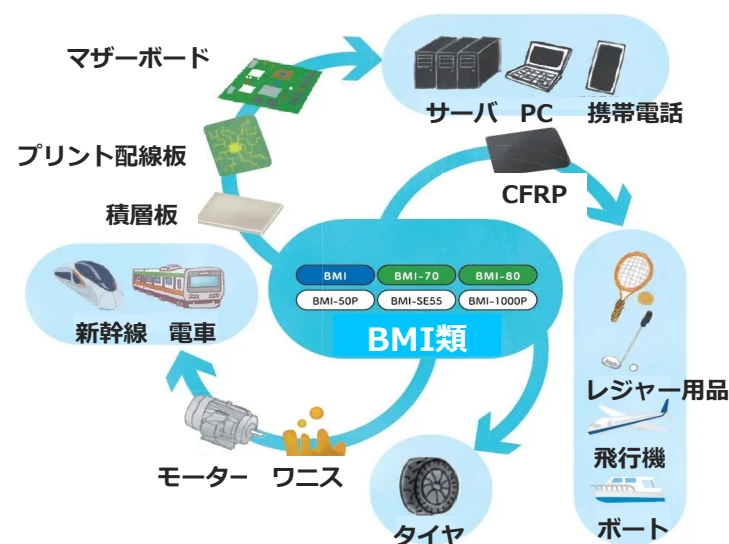
中期経営計画(2024-2026年度) -2年目の取り組み

事業領域の拡大と新規事業の推進

■ 半導体グレード高純度COSガスの本格販売を開始。最先端半導体メモリ分野へ進出

■ ビスマレイミド類（BMI）の生産体制を強化。連結子会社ケイ・アイ化成(株)の新プラントが完成

ケイ・アイ化成 新プラント外観



中期経営計画(2024-2026年度) - **2年目**の取り組み

研究開発力の強化

- 2023年10月に稼働を開始した化学研究所（ShIP）を皮切りに研究活動のインフラ整備を継続。**生物科学研究所の整備計画が進行中。中心となる新研究棟の建設に着手しており、2027年竣工予定。**

化学研究所と生物科学研究所を両輪として、新農薬創製・製品開発のスピードアップと研究領域の拡大を目指す。

- 社外研究機関との連携を積極的に展開し、独自の**AI創薬手法の確立**に向けた取り組みを推進。新農薬開発のスピードアップにつながる基盤技術を整備。

中期経営計画(2024-2026年度) -新剤・新技術の開発状況

新剤の開発

- **フルペンチオフェノックス（殺虫剤）**
抵抗性が発達しているダニに対しても効果を有する新規作用性の殺ダニ剤として開発中。2023年5月に登録申請済み。
- **エコアーク（微生物農薬）**
難防除病害であるブドウ根頭がん腫病に効果を示す世界で唯一の農薬。2025年3月農薬登録取得、2026年上市予定。

既存剤の最大化

- **エフィーダ（除草剤）**
米国で水稻向け除草剤として開発中。その他地域への展開や、対象作物の拡大にも精力的に取り組んでおり、アクシーブに次ぐ、今後の当社の収益を支える剤へ成長させる。

新技術の開発

- 微生物を活用した**バイオスティミュラントの開発**
- 保有技術を活用した**新規半導体材料の開発**

中期経営計画(2024-2026年度) -2年目の取り組み

気候変動・環境負荷の低減

- 温室効果ガス(GHG)排出量削減が目標30%に向け進捗
 - 水田中干延長によるJ-クレジットの活用実施
 - GHG排出量の第三者検証を開始
- ー創業100年の2048年度までにカーボンニュートラルを実現ー

- クミカ レフュジア菊川（ビオトープ）の造成完了
- 2013年から活動しているどんぐりプロジェクト®
(宮城県内の海岸防災林再生)が「第48回全国育樹祭」
で宮城県の緑化等功労者として表彰された

※「どんぐりプロジェクト®」は東京ガスの登録商標です。



中期経営計画(2024-2026年度) - **2年目**の取り組み

人財の育成／人的資本の考え方をベースにした人財戦略

- **2025年11月より新人事制度**を施行（等級制度・報酬制度・評価制度を刷新）

コーポレートガバナンスの高度化

- **法務・コンプライアンス部**を新設しリスク管理体制の強化を推進
- **リスク情報の整理と対策の共有化**や**リスク文化の醸成と進化**の取り組みを推進
- **ダイバーシティ＆インクルージョン(D&I)**の目指す姿として、誰もが働きやすい・活躍できる会社となるべく、D&Iの重要性の浸透、多様な働き方の拡充、女性活躍推進の環境整備を図った

DXの推進／デジタル化の実践

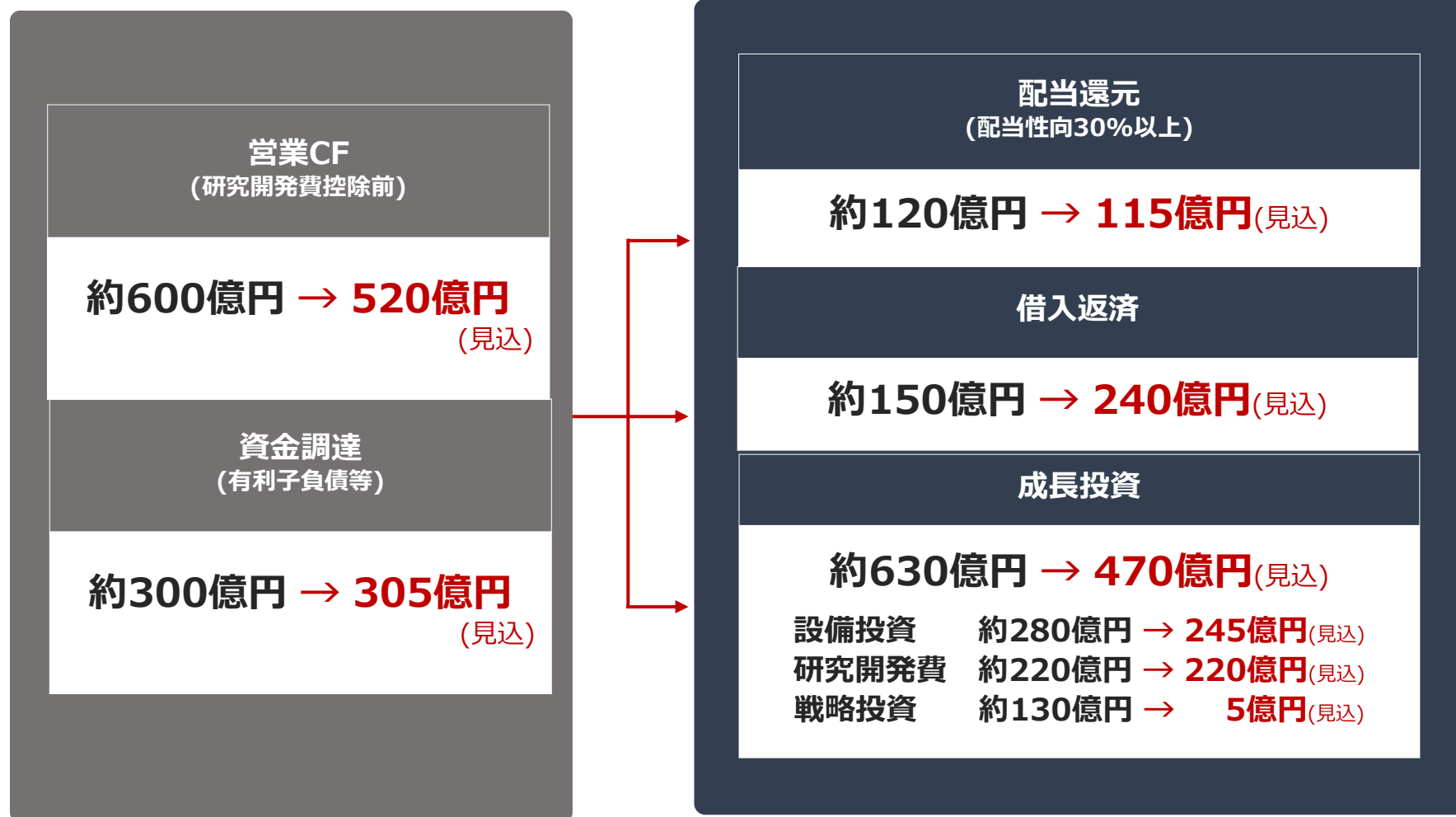
- **生成AI活用**に向けた取り組みを推進
- **DX人財育成**を推進
- **DX／デジタル化の推進**と併行して、**情報セキュリティ体制の強化**にも注力

新剤・新技術の開発状況

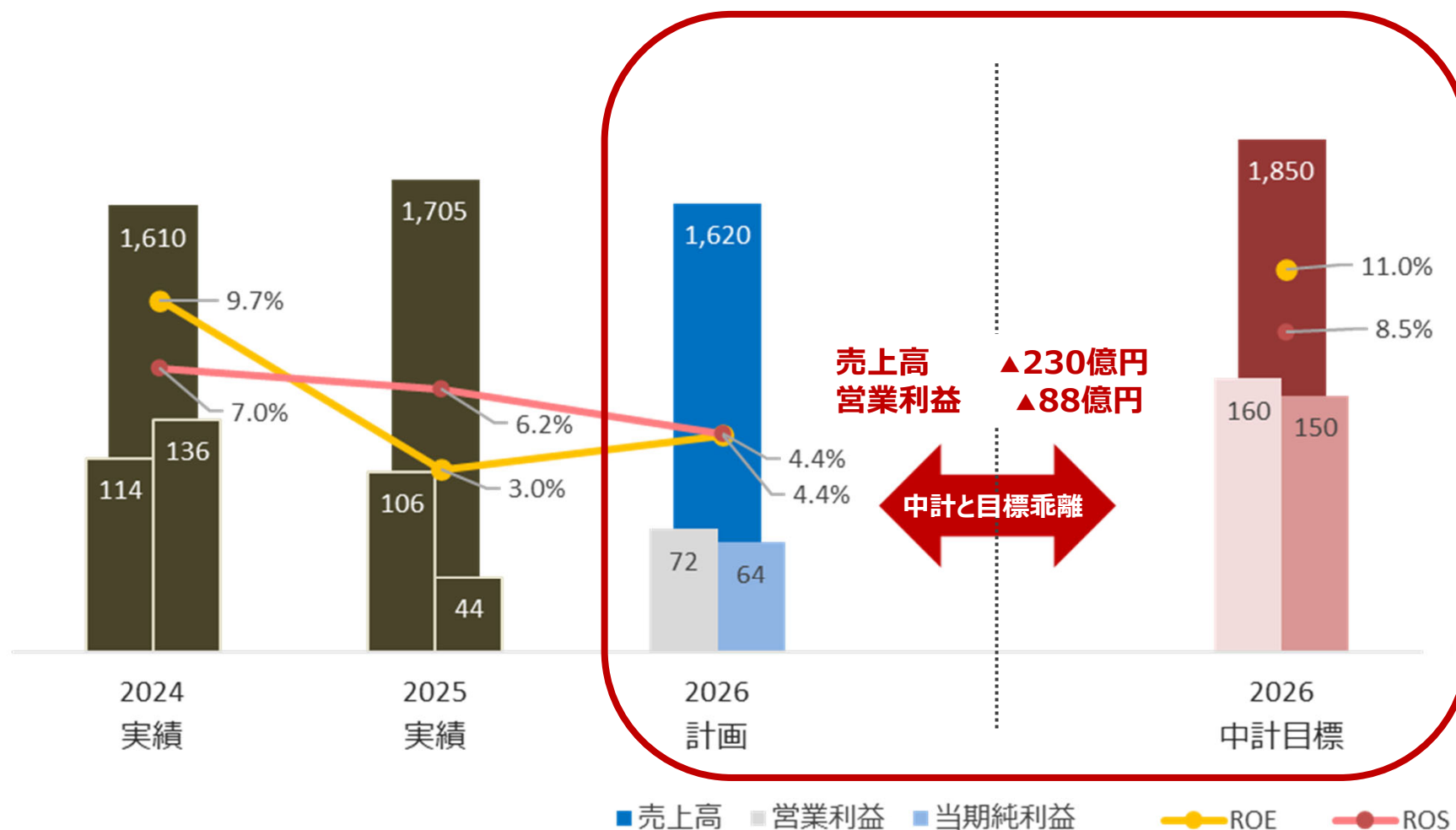
	分野	実用性 評価段階	開発段階	上市 地域・作物拡大
殺虫剤				
フルペンチオフェノックス (バネンタ®)	殺ダニ剤		●	
殺虫剤A	水稲用殺虫剤		●	
殺虫剤B	水稲・園芸用殺虫剤	●		
殺菌剤				
リガード®	水稲用殺菌剤		●	●
殺菌剤A	果樹・野菜用殺菌剤	●		
殺菌剤B	畑作用殺菌剤	●		
除草剤				
エフィーダ®	ムギ・水稲用除草剤			●
除草剤A	畑作用除草剤	●		
除草剤B		●		
微生物農薬・バイオスティミュラント				
エコアーク®	根頭がんしゅ病防除剤		●	●
微生物農薬A	果樹・野菜用防除剤	●		
微生物B	バイオスティミュラント	●		
なつつよし®	バイオスティミュラント	●		●

中期経営計画におけるキャピタル・アロケーション

総額 約900億円 → **825億円**(見込)



中期経営計画(2024-2026年度) - 2026年度業績目標



中期経営計画(2024-2026年度) -2026年度業績目標

“向かい風”

中計策定時の想定を上回るアクシブ事業をとりまく環境の変化

中計目標：売上高1,850億円/営業利益160億円

“追い風”

半導体グレード**高純度COSガス**の販売開始
半導体向け製品**ビスマレイミド(BMI)類**の増産体制を構築

自然に学び 自然を守る



クミカ

本資料に記載されている業績予想および将来の予想などに関する記述は、資料作成時点で入手した情報に基づき、弊社で判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。実際の業績は様々な要因により、これらの業績予想とは異なる可能性があります。

万が一、この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社および情報提供者は一切責任を負いませんこと、ご承知おきください。

弊社および弊社関連会社以外に関する情報は、公知の情報に依拠しており、情報の正確性などについて保証するものではありません。

<お問い合わせ先>
クミアイ化学工業株式会社
経営管理本部 経営企画部 企画課

弊社IRサイトもご覧ください <https://ir.kumiai-chem.co.jp/>